ＩＳＳＮ 0285－4767

# 北海道考古学会だより

第　95　号
２００９．12．３

目　次

**2009年度遺跡見学会報告**……1
参加記：中村和江さん「北海道考古学会遺跡見学会に参加して」
**2009年度遺跡調査報告会のご案内**……2
**定例研究会のお知らせ**……3
**事務連絡**……4
ＨＰ更新のおしらせ
会費納入についてのお願い
会誌編集委員会からのお知らせ

## 2009年度遺跡見学会実施報告

８月23日（日）に実施した遺跡見学会は63人が参加し、「アイヌ民族の歴史と文化にふれる」をテーマに旭川市の遺跡や施設を巡りました。当日は雨の予報でしたが、現地では雨が降ることもなく、予定どおり見学することができました。立岩山チャシ跡遺跡では、東海大学の皆さんが作製した「橋」のおかげで参加者全員が無事に壕を渡りきり、熱心に解説を聞くことができました。

見学コース
１．旭川市神居古潭竪穴住居遺跡、神居古潭チャシ、神居古潭変成帯の岩壁
２．旭川市アイヌ文化の森伝承のコタン
３．立岩山チャシ跡遺跡発掘調査現場
４．旭川市博物館

ご多忙にもかかわらず、対応してくださった北條先生をはじめとする東海大学の皆さん、旭川市博物館の皆さんにお礼申し上げます。
また、見学会に参加された方に参加記を寄せていただきました。ご協力いただいた中村和江様、ありがとうございました。

神居古潭竪穴住居遺跡見学風景

アイヌ文化の森伝承のコタン見学風景

# 「北海道考古学会遺跡見学会に参加して」

中村　和江

予報通りの雨模様のお天気の中、二台のバスは札幌駅北口より旭川へと向かいました。

今年度の遺跡見学会は『アイヌ民族の歴史と文化に触れる』というテーマの下、旭川市内の遺跡・博物館を巡るのです。

最初に訪れたのは、神居古潭竪穴住居遺跡。旭川市のご厚意によって、歩き易いように下草が刈り取られた道なき道を歩くこと数分、木立の中に、ポコポコと沢山の竪穴住居跡が出現。なんと200以上も確認されているとのこと。４年前の見学会でも同地を訪れましたが、今回はその奥の方に残るチャシ跡まで足を伸ばしました。

同行の道埋文センターの芝田さんのご説明によると、チャシとは砦あるいは館のようなものとのこと。そのチャシは崖下に流れる石狩川に向かって12メートル程の半円の浅い壕が掘られてありました。チャシの正確な用途は明確ではないけれど、見張り台、避難場所、宝の隠し場所、あるいは会議をするなどに使われたであろう重要な場であったと思われる。との説明を受けました。眼下を流れる雄大な石狩川、対岸に聳える高い山、沢山の竪穴住居跡の残る一番奥まったチャシで３～400年前頃、アイヌの人達は、どんなことをしていたのでしょう。「午後から訪れる予定の立岩山チャシ跡にも同様の形状が見られますから、良く覚えておいて下さい。」との説明に興味と期待は更に膨らみました。

車中で昼食をとり、アイヌ文化の森伝承のコタンで、珍しく斜面に復元されたチセを見学。男女別々に造られたトイレに感心などして、その後、東海大学が調査を行っている立岩山遺跡の発掘現場を訪れました。神居古潭で見たチャシの形状が、ここでは更にはっきり確認することができました。北側には石狩川の流れ、南側の壕はより深く、やはり弧状で、調査の結果、築造時は壕に沿って高さ１メートル以上の柵列が造られていたことが推測されると、係りの学生さんが説明してくれました。その柵列が焼け落ちたと見られる焼土も発掘されていました。

最後に訪れたのはリニューアルされた旭川市博物館。アイヌの人達の感性が感じられる衣装、木彫品等が数多く展示されていました。10数年程、趣味としてアイヌ刺繍に取り組んでいる私としては、やはり着物に施された模様に目がいきます。木綿糸での刺繍が多い中、旭川地方は絹糸があると聞いていましたが、まさに絹糸による精緻な刺繍に目をうばわれました。襟、袖口、裾から病魔等が入り込まないようにと、愛する人、大切な人の為に、薄暗いチセの中で、一針一針縫い続ける姿を思うとき、胸が熱くなる思いがしました。貴重な針を入れる「チシポ」にもすてきな彫刻が刻まれていました。その手が創り出す美しいもの。それは優しさと生命力さえ感じさせてくれるものでした。

帰りのバスの中、「今年の見学会は、アイヌ、アイヌで、分かり易くて良かったネ」という声が聞こえてきました。私も同感して頷いたことでした。

雨は断続的に降り続いていたのに、見学地に着くと小降り、あるいは止んでしまうというラッキーなお天気にも恵まれて、有意義な一日を終えることが出来ました。

ご尽力頂いた関係者の方々に深く感謝いたします。

# 2009年度北海道考古学会「遺跡調査報告会」のご案内

今年度行われました北海道内の遺跡調査についての報告会を以下の通り開催いたします。今回は報告の最後に、ロシアの研究者の方に近年のオホーツク海北岸の遺跡についても発表をいただくこととなりました。

開催にあたり、例年通り発表遺跡の資料と地域ごとの発掘調査の概況を掲載した資料集を刊行します。

また、報告会終了後には懇親会を用意しておりますので、こちらもぜひご参加下さい。

○日　時：2009年12月19日（土）　10：00～17：00（開場９：30）
○場　所：北海道大学学術交流会館（札幌市北区北８条西５丁目）小講堂
　　＊公共の交通機関をご利用下さい。
○参加費：無料（資料集は1,000円で頒布予定です。）

○報告遺跡（予定）
《午前》　　※【　】内は主な時代
北見市　　北上４遺跡　【旧石器時代】
鶴居村　　下幌呂１遺跡　【縄文時代中期・後期】
福島町　　館崎遺跡　【縄文時代前期】
《午後》
札幌市　　Ｋ39遺跡・Ｃ44遺跡　【続縄文・擦文文化期】
利尻富士町　利尻富士町役場遺跡　【オホーツク文化期】
厚真町　　富里２遺跡　【擦文・アイヌ文化期】
旭川市　　立岩山チャシ跡　【アイヌ文化期】

《特別報告》：北海道大学総合博物館共催
（仮題）オホーツク海北岸の先史時代（レベジンツェフ.Ａ.Ｉ氏）

○懇親会：17：30～（北海道大学百年記念会館「きゃら亭」）3,500円

○その他
当日書籍等の販売・チラシ等の配布を希望する方は事務局まで御一報下さい。

## 定例研究会のお知らせ

**第５回定例研究会（１月）**
○発表者：村本周三氏　　総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史
○テーマ：『縄紋時代中期と後期の境界　―東北地方北部から道東地域を対象として―』
内　容：縄紋時代中期末・後期初頭は、東日本全域で集落の変質、土器の地方色の顕在化といった現象がみられる時期である。しかし、各地の発掘事例の蓄積は均一ではないため、その併行関係の解明は十分ではない。本発表では、火災住居跡の測定事例を中心に既報の14Ｃ年代測定結果を整理し､道東地域におけるトコロ６・５類の境界である3850 14Ｃ ＢＰ頃が東北地方における型式の画期とおおよそ一致することを明らかにした。

**第６回定例研究会（２月）**
○発表者：荒山千恵氏　　北海道大学大学院文学研究科専門研究員
○テーマ：『石狩低地帯出土の木槌について』（仮題）
『弥生・古墳時代における絃鳴系音響発生器具の製作技術について』（仮題）

※日時、場所等は決まり次第、ＨＰでお知らせします。
※会員の皆様で、月例会での研究発表を希望する方は研究会担当運営委員（高橋・佐藤）まで、ご一報ください。

## 北海道考古学会ホームページをリニューアルしました

北海道考古学会ホームページをリニューアルしました（2009年６月30日付）。学会行事や月例研究会のご案内、見学会や研究会開催時の様子、刊行物販売のご案内、会誌原稿や月例研究会発表者の募集など、随時、新着情報を更新しております。是非ご活用ください。

URL:http://www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/

## 会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認した後、送付いたします。

**郵便局口座番号：02770－６－8358　加入者名：北海道考古学会**
**年会費：（一般）5,000円　　（学生）3,500円**

## 会誌編集委員会からのお知らせ

**会誌第46輯の原稿を募集しています**

会誌編集委員会では、2007・2008年の２カ年の研究大会を踏まえ、「続縄文文化の特色」をテーマとした特集を次号で予定しています。このほか、会員の皆様の一般投稿を募集しています。原稿締め切りは、以下の通りですが、投稿を予定されている方は、12月18日（金）までに会誌編集委員会事務局に事前のご連絡をお願いします。原稿の分量・体裁等は、別記「投稿について」及び「原稿の体裁について」（一部改定しています。ＨＰでも掲載中）をご参照ください。

原稿締め切り　2010年１月15日（必着）

会誌編集委員会事務局　〒062-8605 札幌市豊平区旭町４丁目１-40
北海学園大学人文学部　手塚研究室

**〔投稿について〕**

1　投稿資格は、特にお願いする場合をのぞいて、北海道考古学会（以下「本会」という）の会員にかぎります。

a　本会は、任意加入の組織です。入会の手続きについては別記１の本会事務局にお問い合わせください。

b　投稿は別記２の本会会誌編集委員会事務局にお寄せください。

c　投稿原稿には執筆者名・題名・原稿の種類を明記し、投稿者の氏名・連絡先住所および電話番号を添えて正１部の他、査読用に図版を含め必ず副２部（複写可）をお送りください。執筆者と投稿者が異なる場合は、編集委員会にあらかじめご連絡ください。

2　原稿の採否は、査読をへて編集委員の協議によって決定いたします。ただし、編集委員以外の本会

員の意見を求める場合もあります。

a　原稿の採否は受理の日からおおむね１ヵ月以内に文書でお知らせいたします。

b　原稿のヴォリュームやスタイルが「原稿の体裁について」といちじるしく食い違う場合、書き直しをお願いいたします。あらかじめ、「原稿の体裁について」をご参照のうえ、スタイルの統一にご協力ください。

c　編集委員会の構成は別記３のとおりです。

3　原稿のテーマは、北海道とその周辺地域に関するものを中心とします。内容は未発表のものに限ります。

4　掲載する原稿の種類・長さは、おおむね次のとおりです。

論　　文：執筆者（等）による独自の研究成果。刷り上がり16頁以内。
報　　告：執筆者（等）による独自の調査成果。長さは論文に準ずる。
研究ノート：新しい着想・問題提起に関する短論文。刷り上がり８頁以内。
資料・遺跡：注目すべき遺物・遺跡の紹介。長さは研究ノートに準ずる。
書　　評：刊行された書籍（報告書を含む）、または『北海道考古学』に掲載された論文の批評。長さは１件につき２頁以内。

5　投稿者による校正は、特別の場合をのぞき、初稿のみとします。

6　投稿者には、別刷り50部・掲載誌１部を差し上げます。４にしめした長さを超えた分の印刷費、ならびに50部を超える別刷りの印刷費は、投稿者に負担をお願いします。

7　投稿された原稿は、図表等を含め、原則としてお返しいたしません。特別の事情があって返却を希望される場合は、編集委員会にあらかじめご連絡ください。

8　原稿は、プリントアウトした紙媒体のものの他、デジタル化したものもお送り下さい。

別記１

本会事務局
〒060-0810 札幌市北区北10条西７丁目　北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
Tel/Fax：(011) 706-4000　　E-mail：hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp

別記２

編集委員会事務局は当面のあいだ下記におきます。
〒062-8605 札幌市豊平区旭町４丁目１-40　北海学園大学人文学部　手塚研究室
Tel：(011) 841-1161（内線2290）　　E-mail：ktezu@jin.hokkai-s-u.ac.jp

別記３

会誌編集委員会の構成は以下のとおりです。

編集委員長　上野秀一（札幌市教育委員会）
副編集委員長　石川直章（小樽市総合博物館）
編集委員　熊木俊朗（東京大学大学院北海文化研究常呂実習施設）
仙庭伸久（札幌市埋蔵文化財センター）
守屋豊人（北海道大学埋蔵文化財調査室）
手塚　薫（北海学園大学、２号委員）
松田宏介（室蘭市教育委員会、２号委員）

**〔原稿の体裁について〕**

1　本文は、当分のあいだＢ５判横組みとします。原稿は用紙片面に横書きしてください。

a　論文・報告は一段組とし、42字36行を標準とします。

b　それ以外の原稿は二段組とし、23字45行を標準とします。

2　本文中の人名・地名・遺跡名は、初出の場合だけは、必ずルビをふってください。

3　数量の単位、その他の記号は慣用のものにしたがって結構ですが、正確を期してください。
　和文原稿の場合、句読点は「、」（テン）「。」（マル）を標準とします。
　（例）　キロメーター→km　C14年代→$^{14}$C年代　Gak.→GaK
4　文献情報検索に協力するため、本文の冒頭にキーワード（５語以内）を示してください。
　要旨は要求しませんが、外国文要旨の掲載等を記載される場合、原稿の末尾に添えてください。
5　註は不必要に多くならぬよう留意し、引用文献とは分けて、ともに文末にまとめてください。
6　翻訳原稿を掲載する場合や日本語以外の言語を使う場合には、投稿前に言語の校閲等を自らの責任において実施しておいてください。
7　文献の引用については、次の点に配慮してください。
a　著（編）者名と刊行年次を併記し、著者名のアルファベットまたは五十音順に配列してください。
b　出来るだけ該当頁も明記してください。
c　刊行年次が重複する場合は、引用もしくは刊行順に配列し、ａ・ｂ・ｃ等の記号で区別してください。

（例、本文中の引用）
…という指摘もある（Crabtree 1968 : 466）。
…加藤晋平の論考（1972：11）などがあるのみである。

（例、文末の一覧、五十音順）
大場利夫
1983『北海道の先史文化』札幌・みやま書房
大場利夫・大井晴男
1973『オンコロマナイ貝塚』東京・東京大学出版会
オクラドニコフ　Окладников, А.П.
1959 Древнее Поселение Кондон. Новосибирск. Издательство Наука.
加藤晋平
1976ａ「シベリア」麻生優・加藤晋平・藤本強『日本の旧石器文化』４　東京・雄山閣182～284
1976ｂ「後期旧石器の日本と大陸」『歴史公論』第２巻第12号　78～86
ディコフ　Dikov, N.N.
1963 “Archaeo1ogica1 Materials from the Chukuchi Peninsu1a” American Antiquity. 28(1) : 1-17.

8　図の版面は、当分のあいだキャプション込みで天地20×左右13.5cmとします。
a　図面・挿図の枚数・スペースは特に制限しませんが、そのままで製版できるような製図・貼り込みをしてお送りください。
b　図面・挿図等の原稿でデジタルデーターがある場合には添付してください。
c　本文原稿に図の大まかな挿入位置を指示してください。
d　写植が必要な場合、正確な位置を指示してください。
e　挿図の縮尺については青線で記載し、写植の指示は赤線で記載してください。

北海道考古学会だより　第95号　2009年12月３日　発行
発行所　北海道考古学会（HP：http : //www.h7.dion.ne.jp/~hokkouko/）
事務局；〒060-0810　札幌市北区北10条西７丁目
北海道大学大学院文学研究科北方文化論講座　小杉研究室気付
TEL/FAX（011）706-4000
E-mail；hokkaidokoukogakkai@m9.dion.ne.jp
印　刷　北海道図書企画　（011）668－1131